



全国学力学習状況調査の結果を受けて

4月23日に6年生を対象に実施いたしました「全国学力・学習状況調査」（国語・算数の教科調査および学習・生活状況に関する質問紙調査）の結果分析がまとまりましたので、ご報告いたします。

1. 教科学力調査の傾向と改善策

教科学力（国語・算数）におきましては、平均点として全国平均をやや下回る結果となりました。基礎的な問題や、自分の体験と結びつけて考える設問においては一定の定着が見られます。一方で、「記述する」「理由を説明する」「情報を整理する」といった、思考力・判断力・表現力を問う問題に課題が見られました。

この結果を受け、教員間で共通理解を図り、以下の取り組みを推進してまいります。

☆子ども主体の「主体的・対話的で深い学び」を生み出す授業の推進

発表や話し合いの機会を増やし、自分の考えをまとめて発信・表現する場を充実させます。また、複数の資料を比較・関連付けるなどの探究的な問題解決型学習を取り入れ、学びを深めます。

☆「新聞タイム」（毎週木曜日）のさらなる充実

小学生新聞を活用した読解力の育成時間を充実させます。自己評価や相互評価などを取り入れながら、段階的に「記述する力」を育てていきます。

2. 学習・生活状況調査の傾向とご家庭での課題

質問紙調査におきましては、「自己肯定感」や「社会性・協働性」といった非認知能力に関する項目が高く、子どもたちのすばらしい強みとして表れています。一方で、日頃の生活習慣において以下の3点が課題として浮かび上がりました。

①「家庭学習時間の不足」②「インターネット・動画・ゲーム時間の多さ」③「読書量の少なさ」

学習時間の不足とネット・ゲーム時間の多さは相互に関連しており、読書量の少なさは読解力（教科学力）の定着にも大きく影響しています。

学校では、日常の授業の中で理由を説明する場面を増やして読解力・表現力を養うとともに、子どもたちが自身の課題に気づき、見通しを持って学習を進める「自己調整の力」を育ててまいります。

小さな「はてな？」を大切にしながら～2年の生活科から～

2年生の生活科では、夏から秋への季節の変化と、生き物の成長に着目する学習を行っています。

畑での野菜の観察では「種のでき方」に注目しました。実の中にたくさんの種がある様子を見て、

「オクラは部屋が分かれている!」「どうして 1 粒の種から、こんなにたくさん種ができるの?」と、形の違いや不思議さに気づく姿が見られました。「オクラはアサガオの種と似ている」と、1年生での栽培体験と結びつけて考える子もいました。



また、枯れたキュウリやシソを見て「野菜がよく育つ時期があるのかな」「お日様を取り合ったのかも」と考察したり、バッタやトンボの観察では「飛ぶ距離が違うのは、足や羽に秘密があるのかな」と予想したりと、豊かな感性と知的好奇心あふれるつぶやきがたくさん聞こえてきました。

今後も身近な自然との関わりを通して、子どもたちの観察力や探究心を大切に育てていきます。

ミライシード(オクリンクプラスやテストパーク機能)を利用した授業づくり



本校では、学習アプリ「コラボノート(全学年)」と「ミライシード(2年生以上)」を導入しています。1学期のコラボノート活用に続き、2学期はそれぞれの長所を生かした授業を展開しています。

たとえば歴史(社会科)の授業では、ミライシードの「オクリンクプラス」を活用しています。導入で「金閣と銀閣、どちらがおすすめかな」とアンケート集計を行って関心を高め、教科書や資料集でその理由を調査。共有ボードにカードを送り合って意見を整理し、考えを深めています。さらに、ドリル機能(テストパーク)と連携しているため、学習内容の定着確認までスムーズに行えます。

2学期もデジタルツールを効果的に取り入れ、子どもたちの主体的で深い学びにつなげてまいります。

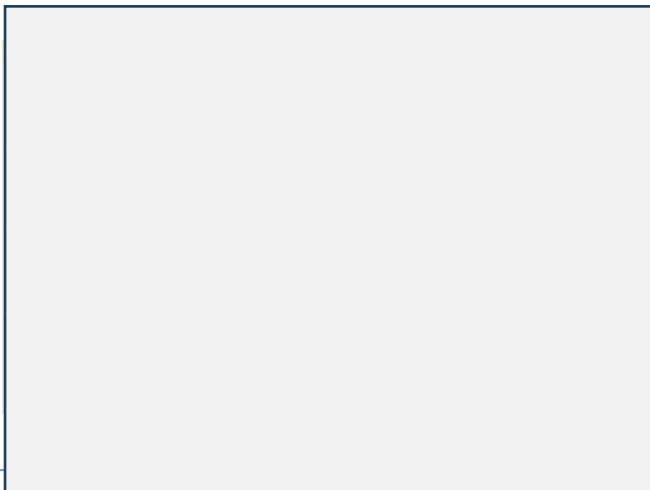
「生成 AI パイロット事業 協力校」としての取組

本校は今年度、国の「生成 AI パイロット校事業」協力校に指定されています。次期学習指導要領で求められる「深い学び(探究的な学び)と情報活用能力の一体的な充実」を見据え、他校に先駆けて研究を進め、子どもたちの情報活用能力の育成に努めています。

2学期からは、3年生以上の学年で情報モラル・検索の指針となる「かんべっ子 ま〜なび」についての説明を終えました。子どもたちがインターネット検索を行う際には、この指針を意識して安全・適切に情報を収集できるよう働きかけてまいります。

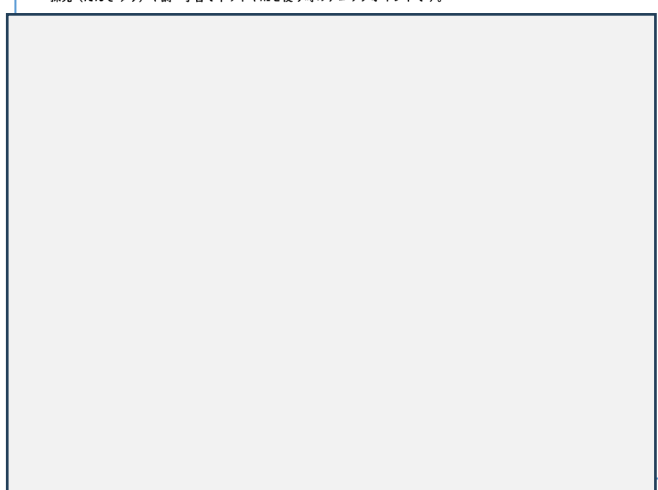
たつの市立神部小学校 情報活用能力、系統表 ～探究的な学びと情報活用能力を一体的に充実させるために～ 探究的な学び(生活・総合)と探究的な要素を持つ学び(教科)において、各要素を一体的に深く育成する。			
育成する要素 (3つの観点)	低学年(1～2年) 【親しみ・基礎操作】 年間30時間	中学年(3～4年) 【活用・探究の基礎】 年間30時間	高学年(5～6年) 【活用・探究の実践】 年間35時間
情報技術の活用 ・基本操作 ・収集 ・整理 比較 ・発信 伝達			
情報技術の適切な取扱 ・メディアリテラシー ・情報モラル ・セキュリティ			
情報技術の特性の理解 ・プログラミング ・生成AI ・データ活用			
ポイント 1. 探究のプロセス まとめ・発信 2. メディアリテラシー 「ま〜なび」の仕組み 3. AI・データ活用 情報をファクト			

【かんべっ子】ま〜なび(ファクトチェック&AIつかいこなしナビ)



【かんべっ子】ま〜なび(ファクトチェックシート)

探究(たんきゅう)や調べ学習でネットやAIを使う時のチェックポイントです。



運動場西側フェンスの危険木と雑木を伐採

夏休みの剪定作業中に運動場西側のフェンス付近で危険木が見つかったため、市教育委員会に対処を依頼しておりました。9月19日に業者による作業が行われ、危険木の対応とあわせて周辺の雑木の剪定も完了いたしました。今後も子どもたちが安心して過ごせるよう、安全な学校施設の環境づくりに努めてまいります。

